



Mercedes-Benz

これは、2012年11月5日にダイムラーAGから発表されたプレスリリースの日本語抄訳です

メルセデス・ベンツ クラシック

Press Information

30周年を迎えたメルセデス・ベンツ コンパクトクラス (W 201 モデルシリーズ)

2012年11月6日

- ・ 1982年11月発表
- ・ 新型コンパクトクラスとしてベンチマークに
- ・ シャープなデザインと先進技術を採用

1982年11月末、メルセデス・ベンツはW 201モデルシリーズの190および190 Eを報道陣向けに披露しました。コンパクトなボディに革新技術を満載したこのセダンは、従来のミディアムクラスおよびSクラスを補うメルセデス・ベンツの第3のモデルシリーズとして開発されたもので、乗用車ラインアップ拡張の先駆けとしてメルセデスブランドの未来を指し示すものでした。このクルマは社内で設定していたコンパクトクラスという車種(1993年のW 202シリーズからはCクラス)の第1弾となっただけでなく、メルセデス・ベンツの大規模なモデル攻勢の始まりを告げる、斬新で先進的なセダンだったからです。

W 201モデルシリーズのセダンは、デビューから約30年をへた現在においてもその強みを確実に維持しており、そのシャープなラインは時を超越した現代的なデザインとして高く評価されています。今振り返ると、このクルマは技術面においても、数多くの革新的なアイデアやコンセプトを盛り込んだものでした。

「ベビーベンツ」の愛称で親しまれた190は、ブルーノ・サッコが手がけた現代的デザインに加え、すぐれたパッシブセーフティや高度なサスペンション、卓越した空力特性、巧みな軽量設計を備えていました。とりわけ、独立懸架マルチリンク式リアサスペンションは、メルセデス・ベンツが190のために独自に開発し、特許を取得した技術です。具体的には、左右のリアホイールを5本の独立したリンクで支持することで、すぐれた走行快適性と精密なハンドリングを同時に実現したものでした。

メルセデス・ベンツの設計開発部門では、このコンパクトクラスをさらに進化させるべく、フェイスリフトを1988年と1991年の2回実施しました。そして発売から10年以上をへた1993年2月、初代コンパクトクラスはジンデルフィンゲン工場での生産を終了しました。しかし、ブレーメン工場では同年8月まで、主に輸出向けに引き続き

生産が行われました。累計生産台数は 187 万 9,629 台と、新型コンパクトクラスとして大きな支持をいただいたことをはっきりと示しています。1993 年には、後継モデルとして C クラス(W 202 シリーズ)が発表されました。

W 201 モデルシリーズの進化

新しいモデルシリーズの発表後、1983 年に最初に発売されたのは 190 と 190 E の 2 モデルのみでした。エンジンはいずれも 2 リッター 4 気筒ガソリンエンジンを搭載していました(最高出力は 190 が 66kW/90hp、190E が 90kW/122hp)。ついで 1983 年秋、フランクフルト・モーターショーにおいて最高出力 53kW/72hp の 190 D (「ささやくディーゼル」)が登場。高効率を達成するとともに、エンジン防音対策によりきわめてすぐれた静粛性を実現した 4 気筒ディーゼルとして、大きな注目を集めました。

1983 年にはこのほか、新開発 4 バルブシリンダーヘッドを採用した 190 E 2.3-16 (最高出力 136kW/185hp)も登場しました。この W 201 フラッグシップモデルはスポーツ性能に非常にすぐれ、1983 年夏にはイタリアのナルドサーキットで、2 万 5,000km、2 万 5,000 マイル、5 万 km 超を平均速度約 250km/h で走破するなど、いくつかの長距離世界記録を叩き出しました。

その後、コンパクトクラスのラインアップは一貫して拡張され、190 D 2.2 や 190 E 2.3 などの輸出モデルも導入されました(主に北米向け)。全体的に見ると W 201 の性能は、5 気筒 190 D 2.5(1985 年、最高出力 66kW/90hp)や、コンパクトクラス初の 6 気筒モデル 190 E 2.6(1986 年、122kW/166hp)など、多くの新モデルの登場にともない、生産期間にわたって継続的に改善されました。

性能面で最高峰を究めたのは 1988 年の 190 E 2.5-16(最高出力 143kW/195hp)でしたが、このモデルはその後も進化を遂げ、最高出力は 173kW/235hp にまで達しました。同時にこれらのモデルはレース用ツーリングカーの基礎を築き、メルセデス・ベンツに数々の勝利をもたらしました。そしてついに 1992 年にはドイツツーリングカー選手権(DTM)でクラウス・ルートヴィヒが AMG メルセデス 190 E 2.5-16 Evolution II をドライブし、栄冠を手に入れました。

1983 年、自動車専門誌「アウト・モトール・ウント・シュポルト」は新型コンパクトクラスについて、「世界で最も古い自動車メーカーのこの新車ほど注目を集め、世の好奇心を掻き立てているクルマはない」と伝えています。モダンで斬新、しかも技術的優位性を狙ったコンパクトクラス。メルセデス・ベンツはこのクルマによって新市場に参入し、当時の一般ユーザーや専門家を熱狂させました。その魅力は今も失われることなく、発表から約 30 年をへた今日でも、W201 は若々しい「現代のクラシック」として高い評価を受けています。